

北九州風力発電事業戦略の考察

—企業による新事業創出の視点から—

氏 名 益田 英成

指導教員 王 効平

要 旨

2018年7月に第五次エネルギー基本計画が閣議決定され、再生可能エネルギーは持続可能なものとして推進された。今後は北九州を中心としたエリアマーケットにおいて、地域産業活性化としての風力発電産業が生まれる。これにより、地元資本の中小企業群からなる企業群が集中的に立地していくこととなる。国内で本格的な洋上風力発電所が建設されれば、洋上風力発電の先進国である欧州諸国など、世界と肩を並べることになる。

本研究の目的は今後建設・運用される計画となっている北九州市若松区響灘沖、台湾海峡における洋上風力発電事業の相互連携の可能性や、新たな産業集積による雇用の可能性を踏まえ、洋上風力産業における人材養成の必要性とその養成事業戦略のあり方を分析することである。

欧州では地域と共生しながら段階的に発展していったことで、風力発電産業は成熟期を迎えており、海外への輸出に力を入れている。先行している欧州の事例、先行研究の枠組みを踏まえながら、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図ることにより、北九州市に所在する自社における洋上風力発電の新規事業の戦略を検討した。

調査研究の方法としては、洋上風力発電に前向きな取組を考えている組織に対して、幅広くヒアリング調査、個別でインタビューを行ったこと、経営戦略策定に当たってSWOT分析の手法を援用して、自社組織内外の環境の分析を行い、洋上風力発電専門組織の新設戦略を模索した。このことでメンテナンス技術者の不足に対しては、風力発電事業のフェーズ全体を見据えたより高度な専門的知識や能力を身に付ける仕組みを効率的に作っていかねばならないことが判明された。

北九州市における洋上風力発電産業クラスターが形成されるためには、環境教育としてのエコツーリズムを取入れること、環境教育の更なる推進が必要であることが判明した。また欧州・台湾での洋上風力関連企業と戦略的な連携により、長期的で持続可能性のある産業を、国際人材の育成により構築していくことも必要であると確認できた。

キーワード：洋上風力発電、メンテナンス技術者、事業戦略